

生涯学習ハンドブック VOL 3

学習プログラムのつくり方

岩手県立生涯学習推進センター

はじめに

今日の社会の科学技術の進展や、情報化、国際化等の急激な変化にともない、人々の学習活動は一層盛んになり、また、学習要求も多様化・高度化・個別化する傾向を示してきています。

このため、市町村の生涯学習関係機関は、人々の自主的な学習活動を活発にし、効率的な学習を支援するために、学習情報の提供をはじめ、学習機会の提供や学習支援を適切に行うことが期待されています。

このような状況をふまえ、県立生涯学習推進センターでは、生涯学習推進のための情報提供、推進方策に関する研究、関係職員の研修等の各種事業に取り組むとともに、当センターにおける研究や研修の成果をもとに、市町村の関係機関等において生涯学習推進の参考となるハンドブックを作成し、平成10年度には「市町村における生涯学習推進体制の整備状況」、11年度には「学習相談と情報提供」を発行しております。

本年度は、「学習プログラムのつくり方」を作成しましたので、住民の学習活動の拡充や市町村の生涯学習の推進のために広く御活用いただければ幸いです。

岩手県立生涯学習推進センター所長 大橋 清 司

目 次

I 学習プログラムとは

1	学習プログラムの定義	1
2	学習プログラムの種類	1
3	学習プログラムの役割	2
4	学習プログラムの構成要素	2
5	学習プログラム作成の流れ	2

II 学習プログラムの作成

1	誰が？ —学習者の明確化—	3
2	どんな目的で？ —学習目標の設定—	4
(1)	要求課題の把握	4
(2)	必要課題の確認	4
(3)	学習目標の設定	6
(4)	学習テーマ（主題）の設定	7

3	何を？　－学習内容の設定－	7
(1)	学習内容の設定	7
(2)	学習のねらいの設定	8
4	どんな方法で？　－学習方法の選択等－	8
(1)	学習方法の選択	8
(2)	教材・教具等の活用	9
(3)	学習グループの編成	10
(4)	講師・助言者等の選定	10
5	いつ？　－学習時期等の設定－	10
6	どこで？　－学習会場の設定－	11
7	その他	11
(1)	事業名の設定	11
(2)	所要経費の確定	11
(3)	評価視点の設定	12
(4)	広報の実施	12

Ⅲ 学習プログラム例

1	情報化に対応した学習プログラム例①	13
2	情報化に対応した学習プログラム例②	14
3	国際化に対応した学習プログラム例①	15
4	国際化に対応した学習プログラム例②	16
5	国際化に対応した学習プログラム例③	17
6	高齢化に対応した学習プログラム例①	18
7	高齢化に対応した学習プログラム例②	19
8	高齢化に対応した学習プログラム例③	20
9	男女共同参画社会の形成に対応した学習プログラム例①	21
10	男女共同参画社会の形成に対応した学習プログラム例②	22
11	環境問題に対応した学習プログラム例①	23
12	環境問題に対応した学習プログラム例②	24

資料

参考資料 1	学習プログラムチェックリスト	25
参考資料 2	年間事業計画の様式例	26
参考資料 3	個別事業計画の様式例	27
参考資料 4	プログラム（学習展開計画）の様式例	28

I 学習プログラムとは

1 学習プログラムの定義

学習プログラムという言葉は、多様なとらえ方がされており、広義には、社会教育事業計画のような、中・長期的な見通しをもってつくられる年次的な支援の計画のことをいい、狭義には、学級・講座における具体的な学習展開の計画のことをいいます。

「生涯学習事典」（東京書籍）では、次のように定義されています。

学習者が学習を進めていくのを援助していくため、学習援助者側が中心となって設定する援助計画の全過程を一定様式に納めた予定表のことを学習プログラムという。

また、学習者たちが自らの手でこれを立案することもある。

2 学習プログラムの種類

学習プログラムは、計画の時間的・内容的レベルに応じ、次のように分類することができます。ここでは、③の個別事業計画（学習計画プログラム）を学習プログラムと呼ぶこととします。

① 中・長期事業計画

事業を所管する部署が、中期的（3～5年）、長期的（5～10年）見通しをもって作成する事業計画。

② 年間事業計画

事業全体（各種事業を総括したもの）の年間をとおした実施計画。

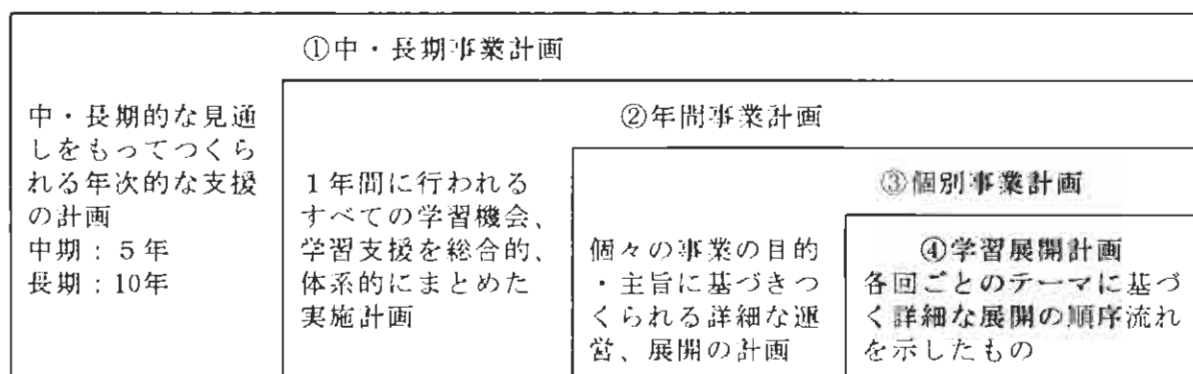
③ 個別事業計画（学習計画プログラム）

個々の事業を実施するに当たっての実施計画。通常3～10回程度の実施計画となる。

④ 学習展開計画（学習展開プログラム）

事業の1回分（2～3時間程度）の展開計画。

【学習支援のための計画（プログラム）の関連構造】



（参考「生涯学習支援のための参加型学習のすすめ方」ぎょうせい）

3 学習プログラムの役割

個別事業計画としての学習プログラムの果たす役割は、次の4つがあります。

- ① 学習希望者に学習内容を示し、広報活動や参加募集を行う。
- ② 学習者に学習の進め方や各回の学習内容などを提示する。
- ③ 運営主体が何を準備すればよいかを知る手がかりとなる。
- ④ 講師・助言者が学習活動の流れから、何を指導・助言したらよいかを判断する手がかりとなる。

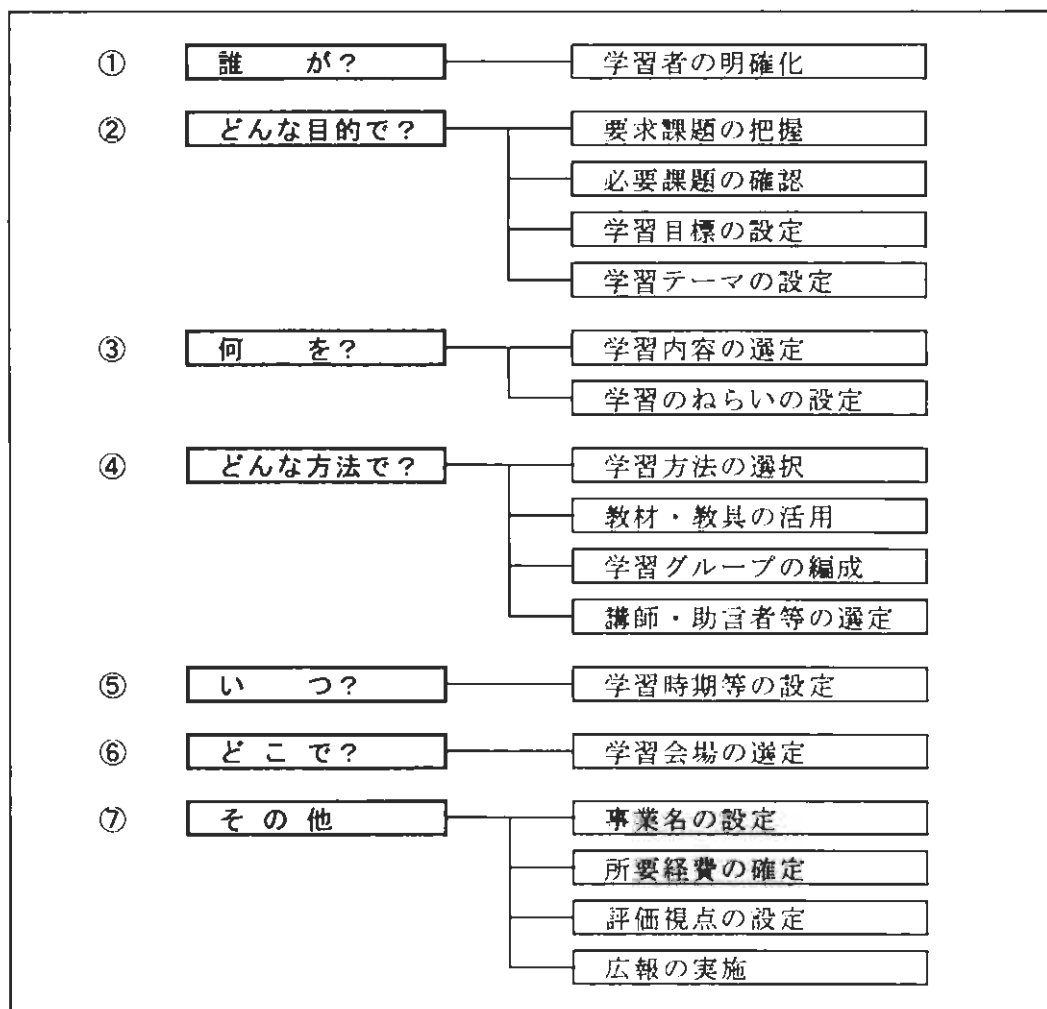
4 学習プログラムの構成要素

学習プログラムをつくるということは、「いつ、どこで、誰が、何を、どんな目的で、どのような方法で、どのような手順で活動するかを、合理的に考えて、学習資源を配置すること」です。

一般に、学習プログラムは、事業名、目的、対象・定員、テーマ、日時、回数、時間、会場、費用、資料、教材教具、学習方法・形態、指導者などから構成されます。

5 学習プログラム作成の流れ

次表は、①誰が、②どんな目的で、③何を、④どんな方法で、⑤いつ、⑥どこで、どんな手順で進めるのか、学習プログラム作成の流れを示したものです。



Ⅱ 学習プログラムの作成

1 誰が？ —学習者の明確化—

まず、最初に、誰がそのプログラムの対象なのかをはっきりさせ、その人たちのことを研究しておきます。

学習者をとらえる観点には、男女といった性による区分のほか、次のようなものがあります。

(1) 年齢によって学習者をとらえる観点

区 分	学習対象者の区分例
年齢層による区分	〇〇歳（具体的年齢）、〇〇歳代、等
ライフステージによる区分	乳幼児期、少年期、青年期、壮年期、実年期、高齢期、等
社会的年齢による区分	就学前期、義務教育期、中・高等教育期、新婚期、育児期、子ども独立期（職場内での管理的職務遂行期）、退職準備期、等

（参考「学習プログラムの技法」実務教育出版）

(2) 生活の場・空間と立場・地位によって学習者をとらえる観点

生活の空間	立場・地位	学習対象者の区分例
余 暇	個人として	趣味・同好者、同好グループのリーダー、等
家 庭	家族として	子ども、親（明日の親、妊婦、両親・父親・母親）、若妻、兄弟・姉妹、祖父母、等
勤 労 の 場	職業人として	在学青少年（小学生・中学生・高校生・大学生）、勤労青年、勤労婦人、働く母親、就職準備者、職業従事者（国勢調査等による職業区分）、職場での役職、等
地 域 社 会	市民として	地域住民、公民館区の住民、市町村の住民、県民、地域リーダー、各種委員、等
国 家	国民として	納税者、有権者、国民、等
地球・世界	世界市民として	東洋人、アジア市民、世界市民、等

（参考「学習プログラムの技法」実務教育出版）

(3) 学習経験の程度によって学習者をとらえる観点

区 分	学習対象者の区分例
学習経験による区分	未経験者、経験者、等
学習への参加度による区分	新規参加者、継続者、等
学習のレベルによる区分	初級・中級・上級者、資格・免許等のレベル別、等

（参考「学習プログラムの技法」実務教育出版）

2 どんな目的で？ —学習目標の設定—

学習者が特定されたなら、次に、学習目標を設定します。

学習目標は、学習者がどのような新しい知識・技術・技能・経験・態度等を獲得するかという見通しを与えるものです。

学習目標の設定は、一般に、学習課題からアプローチする方法がとられ、学習課題は、要求課題と必要課題の2つに分けられます。

(1) 要求課題の把握

要求課題は、学習者自らが学びたいという欲求に基づく学習課題です。

要求課題を把握する方法には、次のようなものがあります。

- ① 地域の人々を対象とした学習要求調査の実施や既存の調査結果の活用
- ② 学習者代表による学習要求の話し合い
- ③ 過去に実施した研修会、学級講座の記録や感想文などの資料の活用

(2) 必要課題の確認

要求課題を把握したなら、それが学ぶべき課題（必要課題）として適当かどうか整理していきます。

必要課題は、社会的責任として学ばなければならないという学習課題のことであり、発達課題、現代的課題、地域課題などがあります。

ア 発達課題

発達課題とは、人間の成長・発達の節目の時期に達成しておくことが望ましいとされる課題のことです。

一般に、ハヴィーガーストによる区分に準拠している例が多く見られますが、応用に当たっては現代的な視点から点検、整理することが必要です。

生涯各期の学習課題には、次のようなものがあります。

乳児期(0～1歳)	・信頼感を持つこと ・基礎的な生活習慣を身につけること(幼児期まで継続)
幼児期(2～5歳)	・自立心を身につけること ・仲間集団において人間関係の基本的ルールを習得すること(少年前期まで継続)
少年期(6～15歳)	・活動性、自発性を身につけること ・豊かな情操を養い、個性を伸ばすこと(青年期まで継続)
青年期(16～22歳)	・自己の確立を図ること ・職業人および社会人となるための準備をすること
成人前期(23～34歳)	・職業生活および新たな家庭生活への適応を図ること ・職業・家庭生活と余暇活動との両立を図り、余暇活動

	を充実させること（成人後期まで継続）
成人中期（35～49歳）	<ul style="list-style-type: none"> ・地域社会におけるより良い人間関係を築くこと ・社会的役割（責任）の増大に対応すること（成人後期まで継続） ・子育て後の再就職に伴う職業生活への適応と家庭生活や余暇活動との両立を図ること（女性） ・地域社会における人間関係を発展させること（成人後期および高齢期まで継続） ・成人病の予防と健康管理に努めること（成人後期および高齢期まで継続）
成人後期（50～59歳）	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢期の生活設計を行い、高齢期に向けて余暇活動の開発を図ること
高齢前期（60～74歳）	<ul style="list-style-type: none"> ・新たな職業への適応を図ること ・新たな余暇活動を発展させること ・若い世代との交流を行い、知識・技能・経験の継承を図ること（高齢後期まで継続）
高齢後期（75歳以降）	<ul style="list-style-type: none"> ・人生の完成期として精神的安定を得ること ・肉体的な衰えや疾病に対応した人間関係の調整を図ること

（引用「生涯学習ハンドブック」第一法規）

イ 現代的課題

現代的課題とは、社会の急激な変化に対応し、人間性豊かな生活を営むために、人々が学習する必要のある課題のことをいいます。

現代的課題の例として、平成4年7月の生涯学習審議会答申「今後の社会教育に対応した生涯学習の振興方策について」は、次のように示しています。

生命、健康、豊かな人間性、人権、家庭・家族、消費者問題、地域の連帯、まちづくり、交通問題、高齢化社会、男女共同参画型社会、科学技術、情報の活用、知的所有権、国際理解、国際貢献・開発援助、人口・食糧、環境資源・エネルギー等

ウ 地域課題

地域課題とは、地域住民が共通して直面し、その原因や要因をとらえ、解決に向けた取り組みが求められる生活課題のことです。

地域課題には、次のようなものがあります。

- ① 狭い意味での地域生活環境にかかわる課題
公害、健康、福祉、医療、保健、衛生、安全等にかかわる問題である。
- ② 地域産業の振興にかかわる課題
農林漁業、地場産業等の振興がこれに含まれる。
- ③ 地域の教育にかかわる課題
地域の教育力の回復、地域住民の学習機会などがこれに含まれる。
- ④ 地域の文化にかかわる課題
伝統文化の継承や新たな地域文化の創造の問題がこれに含まれる。
- ⑤ 地域の社会関係にかかわる問題
住民の新しい地域連帯の形成、地域団体の形成・創出などがこれに含まれる。
- ⑥ 地域の政治・行政にかかわる課題
地域住民の意向を満たした効率的な行政のあり方の問題などが含まれる。

(引用「学習要求の理解」実務教育出版)

(3) 学習目標の設定

学習課題を把握したなら、次に、それを目標化し、学習目標として設定します。学習目標を設定することには、次のような意義があります。

- ① 学級・講座で何を学ぶかを示すものであること
- ② 学習成果の達成度を測定する指標となるものであること

なお、学習目標の設定に当たっては、次の点に留意します。

- ① 単なる理想でなく、実現できるものであること（到達可能性）
- ② 抽象的でなく、学習者が具体的に実感できるものであること（具体性）
- ③ 総花的でなく、学習の中核が明確にわかるものであること（焦点化）
- ④ 学習成果が明確で、その活用が期待できるものであること（メリット性）

【例】

事業名	学習目標
大学医学部予防医学講座 「病気と食事」	健康の維持増進を図るため、病気と食事や予防食についての知識と技術を習得する。
市民国際セミナー	国際化時代に対応し、外国の文化風俗などの学習をとおして視野を広め、国際人としての教養を高める。
パソコン教室	情報化社会に対応するため、パソコンの基礎技術を習得する。

(4) 学習テーマ（主題）の設定

学習目標を受けて、学習日（学習のコマ）ごとの学習内容を包括的に表現したものが学習テーマ（主題）です。

学習テーマを設定することには、次のような意義があります。

- ① 参加者に対しては、各回ごとの学習する概要を示す。
- ② 講師に対しては、指導すべき概要を示す。

なお、学習テーマの設定に当たっては、次の点に留意します。

- ① 学習内容を正しく要約していること
- ② 学習目標や内容との一貫性を持っていること
- ③ 学習者の能力・レベルを考慮すること

3 何を？ —学習内容の設定—

(1) 学習内容の設定

学習内容の設定は、要求課題と必要課題をふまえて導き出された学習目標、学習テーマ（主題）を具体的に項目化していく作業です。

その設定に当たっては、次の点に留意することが必要です。

- ① 学習量と学習項目の種類は、精選して、できるだけ少なくすること
- ② 学習内容は、学習者の生活課題とのつながりを図ること
- ③ 学習内容が次の学習に生かせるよう、学習の連続性を図ること
- ④ 学習内容が学習者の生活に生かせるよう、発展性を持たせること

【例】

学習目標の例	学習テーマの例	学習内容・項目の例
町の歴史を理解する	古代から現代まで	通史としての町の歴史
	時代区分ごとの特徴	縄文文化時代のおが町 弥生式文化時代のおが町 古墳文化時代のおが町、等
	遺跡からみた人々の暮らし	石器・土器と人々の暮らし 住宅跡地からみた人々の暮らし、等
	産業のおいたち	農耕の技術と農業の発達 林業と林産工業の発達、等
	町の歴史散歩	野仏めぐり 寺社仏閣めぐり 指定文化財めぐり、等

(引用「学習プログラムの技法」実務教育出版)

(2) 学習のねらいの設定

学習のねらいとは、コマごとの学習で、学習者に期待されていることを明記したものです。

学習のねらいを設定することには、次のような意義があります。

- ① 受講者にとっては、毎回の学習で習得すべき目標となる。
- ② 講師にとっては、指導のねらいとなる。
- ③ 学習のねらいは、評価の基準となる。

【例】

学習テーマの例	学習のねらいの例
古代から現代まで	古代から現代までの理解を通して、将来を予測できる（させる）
時代区分ごとの特徴	時代区分ごとの特徴を発見できる（させる） 現代と各時代の違いを列挙できる（させる）

（引用「学習プログラムの技法」実務教育出版）

4 どんな方法で？ —学習方法の選択等—

(1) 学習方法の選択

学習内容が決まったなら、次に、それをどんな方法で学ぶかを検討します。

主な学習方法には、次のようなものがあり、その選択に当たっては、学習内容や学習者、学習の場面に応じてさまざまな方法を適宜組み合わせると効果的です。

① 聞くことを主とする方法	講義法	講話・講義、説明
	問答法	パネルディスカッション、シンポジウム、ディベートフォーラム、レクチャーフォーラム、インタビューフォーラム
	聴覚法	ラジオ聴取、テープ聴取、ニューメディア聴取、鑑賞
② 話すことを主とする方法	発表法	発表・報告
	討議法	バズセッション、ブレインストーミング、ラウンドテーブルディスカッション、各種のフォーラム
	観察法	観察、調査
③ 見ることを主とする方法	視聴法	T V視聴、フィルム視聴、ニューメディア視聴
	見学法	見学、観覧
	読書法	読書、新聞・雑誌の閲覧
④ 読むことを主とする方法	読書法	読書、新聞・雑誌の閲覧
⑤ 書くことを主とする方法	記録法	記録、作文、描写、等
⑥ 実践することを主とする方法	劇化法	ロールプレイング、等
	実習法	実習、実験、飼育・栽培、レクリエーション、等
	構成法	描画等の創作、作曲、各種作品の制作、等
	演奏法	歌唱、器楽、等

（参考「学習プログラムの技法」実務教育出版）

【学習方法の組み合わせ例】

例1 講義 → 質疑 → 話し合い → グループ研究 → 研究発表 → 評価

例2 話し合い → 調査 → 講義 → 話し合い

例3 テレビ視聴 → 話し合い → 見学 → 実験実習 → 研究発表 → 評価

例4 調査 → 結果の分析と教材化 → 話し合い → 講義 → 話し合い

なお、学習プログラムをより充実させるための学習方法として、学習者が主体的に問題解決を図る参加型学習、いわゆる「ワークショップ」があります。

ワークショップは、グループでの話し合いを基本とし、話し合いを進めるためのさまざまな方法が工夫されています。たとえば、ブレインストーミング、ロールプレイ、ディベート、KJ法などです。こうした方法により、グループでの話し合いを活発にすることは、学習者が学習方法を身につけ、学習を継続していく力を養うこととなります。

(2) 教材・教具等の活用

学習活動は、教材・教具等を活用することで、より効果的に進めることができます。教材・教具を選ぶ視点には、次の4つがあります。

- ① 学習目標、テーマ、ねらい、学習内容、方法に合っていること
- ② 学習者の学習経験や能力のレベルにふさわしいこと
- ③ 教材・教具に対する講師の理解度や熟練度が合っていること
- ④ 学習者の日常生活や地域との緊密性があること

なお、教材・教具の選定に当たっては、次の点に留意します。

- ① プログラム立案者は、教材・教具の特性・種類・内容などを熟知しておくこと
- ② 他の施設との連携・協力を図り、情報などを収集しておくこと
- ③ 新しい教材・教具は、使用方法などを理解しておくこと
- ④ 講師と事前に打合せをしておくこと

(3) 学習グループの編成

学習グループを編成することにより、学習を効果的に進めることができます。

グループは、一般的に、4～6人程度で構成されますが、編成に当たっては、次の2つがポイントとなります。

- ① 自由に意見交換でき、情報を正確に伝えられ、親密な人間関係を維持できる規模であること
- ② 教具の数量や施設の規模等を考慮すること

(4) 講師・助言者等の選定

学習内容にもっとも適切な講師・助言者等を活用することにより、学習の成果や学習者の満足感を高めることができます。

その選定に当たっては、学習内容や学習方法、予算等との関連を考慮することが必要となります。

講師・助言者等の情報を入手する方法には、次のようなものがあります。

- ① 県や各市町村で作成している「指導者ガイドブック」の活用
- ② 県立生涯学習推進センターの「生涯学習情報提供システム」に蓄積された指導者情報の活用（アドレス <http://www.manabi.pref.iwate.jp>）
- ③ 県立生涯学習推進センターの生涯学習電話相談「マナビィコール」の活用（TEL 0198-27-4563）

なお、講師・助言者等の情報については、新聞・広報紙・タウン誌などの記事や関係機関・団体から提供された事業報告書等を、ファイル化やデータベース化するなど、日ごろから、その収集に取り組んでおくことが必要です。

5 いつ？ —学習時期等の設定—

学習の時期や期間・時間、回数・総時間数などは、学習者の特性と学習内容・方法から判断し、設定します。

各設定に当たっての留意点は、次のとおりです。

- ① 学習時期は、学習者の特性や生活条件から判断すること
- ② 学習期間は、学習内容と学習者の生活実態から判断すること
- ③ 学習回数・総時間数は、学習内容と学習者の特性から判断すること
（予算、講師の予定、補助事業の場合には補助要件等の確認が必要）
- ④ 学習時刻は、学習者の生活時間帯と交通アクセスを考慮すること

6 どこで? —学習会場の設定—

学習会場には、公民館、図書館、博物館、体育館、屋外スポーツ施設、学校、コミュニティセンター、自治会館、民間施設などがあります。

学習会場の選定に当たっては、次のことに留意するとともに、施設の使用手続き、使用料、開館時間などを事前に調べておく必要があります。

- ① 学習内容や学習方法に適した場所であること
- ② 立地条件がよいこと
- ③ 必要な設備が整っていること

7 その他

(1) 事業名の設定

事業名は、学習プログラムのタイトルに当たり、参加意欲を大きく左右します。

事業名の設定に当たっては、参加対象、実施主体、学習方法・形態、学習内容の領域等、学習内容が具体的に想起できるものが望まれます。

【例】

重視した項目	表 示 例
参 加 対 象	・「中・高年のストレス診断講座」 ・「高齢者のための消費生活講座」
実 施 主 体	・〇〇公民館「英会話教室」 ・高等学校開放講座「ガーデニング」
学習方法・形態	・IT講座「インターネットの技法」 ・トーク&トーク「男と女のいい関係」
学習の内容領域	・「子どもの性教育学級」 ・国際理解講座「食糧をめぐる国際問題」

(参考「学習プログラムの技法」実務教育出版)

(2) 所要経費の確定

経費は、補助金事業と、自主開設事業の別、参加者負担金の有無等を明確にし、事業全体の経費と毎回の経費を算出しておきます。

- ① 各学習テーマ、学習活動ごとに経費を算出すること
- ② 全体としての予算書を作成すること
- ③ 学習者の負担がある場合には、それを明記し別途会計として処理すること

(3) 評価視点の設定

学習プログラムを展開するに当たり、学習目標や学習のねらいの達成を確認し、新たな課題や目標を発見するためには、評価が必要になります。

学習プログラムを決定するときに、あらかじめ、評価の視点、方法、時期を決めておきます。

評価の視点には、次のようなものがあります。

評価の視点	例 (内 容)
評価対象	<ul style="list-style-type: none">・受講者の学習活動に対する評価 (学習評価)・講師・助言者に対する評価 (教育評価)・学習プログラムの編成に対する評価 (事業評価)
評価主体	<ul style="list-style-type: none">・学習者自身による評価 (自己評価)・講師、事業提供者、学習者相互による評価 (他者評価)
評価項目	<ul style="list-style-type: none">・学習活動は、新しい知識・技術を身につけたか・学習目標を達成できたか・新たな学習目標や課題を見つけたか・学習プログラムは、「チェック表」に照らし適切であったか
評価尺度	3段階、4段階、5段階、点数化、観察、話し合い、アンケート
評価方法	<ul style="list-style-type: none">・学習者が学習成果や感想を自由記述する (自己診断法)・学習状況を指導者等が観察する (観察法)・出席をもとに何らかの学習成果があったとみなす (出席率)・話し合いなどで関心や態度の変化を調べる (その他)
評価時期	<ul style="list-style-type: none">・学習者の要求やレベル把握のため、事前に行う (事前評価)・学習活動中に行う (形成的評価)・講座終了時に行う (総括的評価)

(4) 広報の実施

作成した学習プログラムは、住民に広く知られ、学習活動につながるような広報の工夫が必要になります。

- ① 広報についての内容を決める (項目や表現方法など)
- ② 広報の方法を決める (チラシやポスター等の種類、広報する時期)
- ③ 広報の内容や配布について、関連機関・団体等との協力体制を考えておく

Ⅲ 学習プログラム例

ここでは、多様な学習課題の中から現代的課題を取り上げ、情報化、国際化、高齢化、男女共同参画社会の形成、環境問題に視点を当てた学習プログラム例を紹介します。

1 情報化に対応した学習プログラム例①

- (1) 事業名： 「居間から発信、インターネット」
- (2) 学習目標： 情報化社会についての理解を深めるとともに、インターネットや電子メールの操作技術、ホームページの作成技術を習得することにより、情報化社会における情報活用能力を高める。
- (3) 対象・定員： 成人・20人
- (4) 回数・時間： 10回・20時間
- (5) 学習プログラム

回	学習のテーマ	学習のねらい	学習内容	時間	学習方法	指導者	教具・教材・備考
1	情報化って何？	情報化社会の現状について理解し、その役割や展開を考える	・情報化社会とは ・情報産業の現状 ・情報化社会の未来像	2.0	講義	大学教員	パソコン 投影機 ビデオ
2	インターネットって何？	インターネットの概要を知りパソコンの基本操作を習得する	・パソコンの基本操作 (起動、終了、クリック) ・インターネットの基本	2.0	講義 実技	インストラクター	パソコン 投影機 ビデオ
3	インターネットを体験	インターネットの基本操作を習得する	・情報検索 ・Webページを見る	2.0	同上	同上	パソコン 投影機
4	インターネットで情報収集	必要な情報の検索方法を習得する	・インターネット検索の方法	2.0	同上	同上	同上
5	電子メール体験Ⅰ	メールの基本操作を習得する	・Eメール登録 ・メール送信	2.0	同上	同上	同上
6	電子メール体験Ⅱ	メールを作成、送信、受信ができる	・メールの作成 ・メールの送信 ・メールの受信	2.0	同上	同上	同上
7	ホームページの作成Ⅰ	自己紹介ページが作成できる	・自己紹介ページの作成 ・画像の貼り付け	2.0	同上	同上	同上
8	ホームページの作成Ⅱ	画像つきの自己紹介ページが作成できる	・自己紹介ページの作成 ・背景や色の変更	2.0	同上	同上	同上
9	ホームページの作成Ⅲ	リンクページの作成ができる	・リンクの挿入 ・テンプレートを利用したページの作成	2.0	同上	同上	同上
10	生かそう情報	多くの情報の中から必要な情報を収集活用する方法を考える	・情報社会生活 ・情報の役割とその収集方法 ・情報の活用方策	2.0	講義	マスコミ関係者	パソコン 投影機 ビデオ

2 情報化に対応した学習プログラム例②

- (1) 事業名： 「初心者のためのパソコン講座」
- (2) 学習目標： 初歩的なワープロ機能の操作および表計算の技術を習得する学習機会を提供することにより、地域住民の課題解決のための情報活用能力を育成する。
- (3) 対象・定員： 成人（パソコン初心者）・30人
- (4) 回数・時間： 10回・20時間
- (5) 学習プログラム

回	学習のテーマ	学習のねらい	学習内容	時間	学習方法	指導者	教具・教材・備考
1	パソコンにふれよう	マウスとキーボードの操作ができる	・パソコンの起動と終了 ・FDのフォーマット ・キーボード操作	2.0	講義 実技	インストラクター	パソコン ビデオ
2	ワープロ操作Ⅰ (文字の入力)	文字入力ができる	・ひらがな、カタカナ(全角・半角)の入力 ・英字、数字、記号の入力	2.0	同上	同上	同上
3	ワープロ操作Ⅱ (文書作成と編集)	漢字変換と文書編集ができる	・ひらがな入力と漢字変換 ・文節移動 ・文書の編集	2.0	同上	同上	同上
4	ワープロ操作Ⅲ (文書作成、印刷、終了処理)	文書作成、印刷、終了処理ができる	・文書の修正、編集・印刷 ・表(罫線)作成	2.0	同上	同上	同上
5	ワープロ操作Ⅳ (宛名ラベルの作成と差込印刷)	宛名ラベルの作成と差込印刷ができる	・宛名ラベルの作成 ・差込印刷	2.0	同上	同上	同上
6	表計算の操作Ⅰ (表計算の基本)	文字、数値の入力、文書編集、終了保存ができる	・文字、数値の入力 ・文書の編集 ・ワークシートへの保存	2.0	同上	同上	同上
7	表計算の操作Ⅱ (集計処理、図形処理)	集計処理、図形処理ができる	・セル幅変更 ・関数貼り付け ・罫線	2.0	同上	同上	同上
8	表計算の操作Ⅲ (グラフと表の入力と印刷処理)	各種グラフ作成ができる	・グラフ作成 ・棒グラフ、折れ線グラフ、円グラフ	2.0	同上	同上	同上
9	ワープロ操作Ⅳ (文書にグラフを貼り付ける)	ワープロ文書にグラフを貼り付けることができる	・文書作成(書式設定、編集機能、画像貼り付け) ・印刷、保存	2.0	同上	同上	同上
10	インターネットを体験してみよう	インターネット体験をとおして次の学習への意欲を喚起する	・インターネットへの接続 ・情報検索	2.0	同上	同上	同上

3 国際化に対応した学習プログラム例①

- (1) 事業名： 「市民の国際交流を考える」 講座
- (2) 学習目標： 外国文化を理解するとともに、外国人の日本人観を理解し、国際社会における国際交流の在り方を考える。
- (3) 対象・定員： 成人・40人
- (4) 回数・時間： 8回・16時間
- (5) 学習プログラム

回	学習のテーマ	学習のねらい	学習内容	時間	学習方法	指導者	教具・教材・備考
1	国際社会における日本	国際情勢と日本の現状を知り、国際交流の在り方を考える	・現在の国際情勢 ・国際交流の在り方	2.0	講演	新聞社論説委員	
2	市民から見たアジアⅠ	外国文化を理解し、日本文化の良さを再認識する	・アジアの人々の暮らしや考え方、文化	2.0	レクチャーフォーラム	アジア地域の国の生活体験者	スライド ビデオ
3	市民から見たヨーロッパⅡ	外国文化を理解し、日本文化の良さを再認識する	・ヨーロッパの人々の暮らしや考え方、文化	2.0	レクチャーフォーラム	ヨーロッパ地域の国の生活体験者	スライド ビデオ
4	外国から見た日本Ⅰ	外国文化を理解し、外国人の日本人観を知る	・アジアの人から見た日本人観	2.0	レクチャーフォーラム	在日外国人	スライド ビデオ
5	外国から見た日本Ⅱ	外国文化を理解し、外国人の日本人観を知る	・欧米人から見た日本人観	2.0	レクチャーフォーラム	在日外国人	スライド ビデオ
6	国際協力のために	海外協力隊派遣者の体験談から国際協力の在り方を考える	・海外協力隊の任務 ・国際協力事業の紹介 ・国際協力への道	2.0	講演	青年海外協力隊派遣者	スライド 写真 ビデオ
7	世界の子どもたちは今	発展途上国の子どもたちの実態を知り、その解決策を考える	・飢え、病気に悩んでいる子どもたちの実態と解決方策	2.0	レクチャーフォーラム	ユニセフ関係者	スライド 写真
8	国際交流を深めよう	国際交流を通して国際感覚を身につけさせる	・ディスカッション ・自己紹介 ・スピーチ	2.0	シンポジウム	ユネスコ関係者 英語指導助手 在日外国人	映画 写真

4 国際化に対応した学習プログラム例②

- (1) 事業名： 市民セミナー「国際化の中で日本文化を考える」
- (2) 学習目標： 世界の国々が持つ固有の歴史・文化・風俗・習慣などへの理解を深めるとともに、日本人としての自覚を高め、自国文化への理解を促進する。
- (3) 対象・定員： 成人・20人
- (4) 回数・時間： 8回・17時間
- (5) 学習プログラム

回	学習のテーマ	学習のねらい	学習内容	時間	学習方法	指導者	教具・教材・備考
1	今、なぜ国際化？	国際理解の必要性と意義についての理解を図る	・国際化とは何か	2.0	講義	大学教員	
2	わが国の歴史を知ろう	日本の歩んできた歴史の中に国際化の姿を見る	・世界の中における日本の歴史と文化	2.0	講義 話し合い	大学教員	OHP
3	風土と生活文化の違い	文化の違いはどこから生じるのかを考える	・風土と生活様式 ・民族の考え方の違い	2.0	講義 話し合い	大学教員	
4	マナーの違い	日本と外国のマナーの違いを知ることにより理解を深める	・生活習慣の違い ・簡単な英会話を通じた相互理解	2.0	講義 話し合い 実技	英語指導助手	
5	わたしの国の料理	自国料理を紹介することにより食文化に対する理解を深める	・自国料理を作る ・ハーティー	3.0	実技	英語指導助手	調理器具等 食材
6	外国人との心のふれあい	諸外国の人々との交流を図り、相互理解を深める	・クイズ、ゲーム、歌 ・外国人の故郷の話	2.0	実技 話し合い	英語指導助手	歌のしおり ビデオ
7	信頼される日本人とは？	個人や国家の役割を認識し、国際協力を積極的に果たす	・よき日本人としての在り方 ・自分の国際化の方向性を考える	2.0	講義 話し合い	マスコミ関係者	
8	わたしの国際化	学習してきたことをもとに一人一人がなすべきことを探る	・地域の中でできること ・自分の国際化の方向性を探る	2.0	話し合い	国際交流推進担当者、実践者	

5 国際化に対応した学習プログラム例③

- (1) 事業名： 親子で体験「世界はともだち」
- (2) 学習目標： 親子による外国人との交流をとおり、身近な外国文化にふれ、外国と日本の関わりについて学び、言葉や文化の違いを越えて交流することの大切さを認識する。
- (3) 対象・定員： 親と子（小学生）15組・30人
- (4) 回数・時間： 7回・14時間
- (5) 学習プログラム

回	学習のテーマ	学習のねらい	学習内容	時間	学習方法	指導者	教具・教材・備考
1	はじめまして、 カントリーソング &ダンス	歌や踊り、ゲームを 通して外国への興味 を持つ	・ふれあいゲーム ・外国の歌と踊り	2.0	交流 実技	レクリエーシ ョン指導者	放送機材 レク材料
2	身近な生活の中の 外国	日常生活が外国と関 わっていることを理 解する	・身の回りの外国製品、言葉、 文化の調査	2.0	話し合い 調査	担当者	外国製品 世界地図
3	外国を知ろう	外国の様子を知ると ともに外国人との会 話を体験する	・わたしの国の紹介（歴史、 文化、子どもたちの様子、 日本とのかかわり）	2.0	講話 話し合い	地元在住外国 人、留学生	ビデオ スライド
4	世界の中の日本	海外での日本の位置 付け、日本人の活動 を知る	・海外で働く日本人の生活 ・海外へ輸出されている日本 製品や日本文化	2.0	講話 話し合い	海外生活体験 者	ビデオ スライド
5	外国料理に挑戦	共同での料理を楽し むとともに外国の食 文化にふれる	・身近な外国の食材を知る ・外国の家庭料理	2.0	調理実習 会食	料理研究家、 留学生	調理器具 食材
6	外国の祭りを体験	外国の祭事を通して 異文化を知る	・外国の祭事（ハロウィン等） ・祭事用小物作り ・疑似体験	2.0	講義 工作 実技	地元在住外国 人、留学生	ビデオ 工作材料
7	パーティーを楽し もう	協力してパーティー の準備をし、参加者 の親睦を深める	・会場の飾り付け ・ゲーム ・おやつを食べる	2.0	交歓	レクリエーシ ョン指導者	家にあるものを 持ち寄る

6 高齢化に対応した学習プログラム例①

- (1) 事業名： 余暇活用講座「自分を生かす」
- (2) 学習目標： 高齢期における、余暇を活用した社会参加活動の意義と方法を学び、実践活動に結びつける。
- (3) 対象・定員： 高齢者・20人
- (4) 回数・時間： 10回・30時間
- (5) 学習プログラム

回	学習のテーマ	学習のねらい	学習内容	時間	学習方法	指導者	教具・教材・備考
1	余暇って、何？	余暇についてさまざまな角度から考える	・余暇時代の到来とその対応 ・生涯学習のすすめ	2.0	講話 映画 話し合い	社会教育主事	16ミリ映画
2	歌って踊って1・2・3!	高齢者の集まりで、皆が一緒になって楽しめるものを学ぶ	・老人クラブや集会、家庭でできるゲーム、歌、踊り等のレクリエーション	2.0	実技 練習	レクリエーション指導員	ラジカセ レク用具
3	新たな生きがいの発見	自分らしい生きがいのある生活の送り方を考える	・高齢化社会と生活設計 ・一人暮らしと生活の安定 ・再就職への挑戦	2.0	講話 話し合い	社会福祉行政関係者 社会教育主事	
4	若い世代とともに	若者たちと語り合い、相互理解をする	・現代の教育、子どもの心理 ・若い世代に望むもの ・望ましい高齢者の姿	3.0	講話	教員 社会教育主事	
5	ランチ・サービス ・ボランティア	調理実習と独居老人への食事宅配ボランティアを行う	・一人暮らしの食事のヒント ・老人食の調理実習	5.0	講話 調理実習 話し合い	保健婦 栄養士 調理師	調理器具 食材
6	懐かしのあの歌、この歌、あの遊び	楽しみながら学び趣味と教養を向上させるひとときを持つ	・名作の朗読 ・小学校時代の唱歌合唱 ・創作、製作活動	3.0	講話 実技	地域の有志指導者	
7	芸術鑑賞	舞台芸術を鑑賞し、豊かな情操を涵養する	・舞台芸術の鑑賞 ・感想話し合い	3.0	鑑賞 話し合い	公民館主事	
8	わたしの生きがいを語る	意見発表の中から高齢者の生き方を学ぶ	・各人が自分の生きがいを発表し合う	2.0	意見発表	公民館主事	文化会館自主事業の芸術鑑賞教室に参加
9	シルバー・バザー展	作品をバザーで販売し、収益を福祉施設等に寄付する	・福祉展 ・バザー展	6.0	展示 販売	公民館主事	公民館の文化祭の一端として行う
10	地域と共に生きる	地域コミュニティづくりへの参画意識を高める	・地域社会における人間関係 ・地域づくりと高齢者の役割 ・社会参加活動の実際	2.0	講義	大学教員	

7 高齢化に対応した学習プログラム例②

- (1) 事業名： シニア講座「電腦時代を楽しむ」
- (2) 学習目標： 情報化時代における、高齢期の生活を楽しむため、さまざまなニューメディアにふれ、その機能や操作方法を知る。
- (3) 対象・定員： 高齢者・30人
- (4) 回数・時間： 6回・18時間
- (5) 学習プログラム

回	学習のテーマ	学習のねらい	学習内容	時間	学習方法	指導者	教具・教材・備考
1	ハイビジョン放送って何？	多様化するテレビ放送の動向やその違いを理解する	・BS放送とCS放送 ・ハイビジョン放送 ・デジタル放送	3.0	講義 視聴	NHK職員	テレビ受像機と受信装置
2	携帯電話を使いこなす	携帯電話等の種類とその機能を理解する	・携帯電話等の種類と違い ・各種機能	3.0	講義 実習	NTT職員	携帯電話等
3	インターネットで世界が広がる	インターネットの仕組みを理解し自分で操作できる	・インターネットの仕組み ・インターネットの操作方法	3.0	講義 実習	インストラクター	パソコン
4	テレビゲームで遊ぶ	孫と一緒にテレビゲームを楽しむ	・囲碁、将棋 ・ロールプレイングゲーム	3.0	実習	小・中学生	ゲーム機
5	CD、MD、DVDまとめて体験	各種機器の機能と特質を知り、音や映像を楽しむ	・CD、MD、DVDの機能とその操作方法	3.0	講義 実習 視聴	AV機器販売店職員	CD、MD、DVD等
6	情報化時代の賢い消費生活	情報化時代を、積極的に楽しむために注意すべきことを知る	・契約や販売をめぐるトラブル事例と解決方法	3.0	講義	県民生活センター職員	ビデオ

8 高齢化に対応した学習プログラム例③

- (1) 事業名： 「シルバーライフ入門講座」
- (2) 学習目標： 高齢社会を楽しく賢く健康に生きるためのヒントを考える。
- (3) 対象・定員： 成人（中・高年）・30人
- (4) 回数・時間： 8回・16時間
- (5) 学習プログラム

回	学習のテーマ	学習のねらい	学習内容	時間	学習方法	指導者	教具・教材・備考
1	高齢社会と私たち	将来自分たちが生きる高齢社会について理解する	・高齢社会の現状と課題	2.0	講義	ソーシャルワーカー	ビデオ OHP
2	介護って何だろう	介護を親や自分の問題として考える	・介護制度の概要 ・介護の心構え	2.0	講義	福祉行政職員	ビデオ OHP
3	加齢体験	模擬体験をとおして老いについて考える	・器具や装具を身につけ、加齢体験をする	2.0	体験	福祉施設職員	ビデオ 加齢体験器具
4	高齢者施設を見学しよう	高齢者施設の現状について理解する	・老人ホームや特別養護老人ホーム等の概要	2.0	講義 見学	施設長	
5	在宅高齢者へのサービス	身近にある施設等の利用方法を知る	・デイサービスやショートステイのサービスの内容、利用方法等	2.0	講義 見学	施設長	
6	いきいき健康生活	健康生活のための食生活や運動について考える	・食生活と健康 ・高齢期の運動 ・心の健康	2.0	講義 実技	保健所職員	ビデオ
7	充実、余暇生活	老後の生活の充実に趣味や地域活動が必要なことを理解する	・趣味と仲間作り ・地域活動と社会参加	2.0	講義	実践者	ビデオ
8	わたしのライフプランを考える	シルバーライフの生活設計について考える	・高齢期の生活と準備すべきことについて	2.0	話し合い	社会教育主事	

9 男女共同参画社会の形成に対応した学習プログラム例①

(1) 事業名： 「わたしらしき発見セミナー」

(2) 学習目標： 女性と男性が等しく責任を担いながら、お互いの個性や能力、感性を発揮し、男女共同参画という新しいライフスタイルを創造するため、男女を取り巻くさまざまな問題を基礎から学習する。

(3) 対象・定員： 成人・30人

(4) 回数・時間： 6回 12時間

(5) 学習プログラム

回	学習のテーマ	学習のねらい	学習内容	時間	学習方法	指導者	教具・教材・備考
1	ジェンダーって何?	日常生活におけるステレオタイプな考え方に気づく	・仲間づくり ・ジェンダーチェック	2.0	ゲーム 実技	社会教育主事	チェックリスト
2	今、なぜ男女共同参画か	男女共同参画社会とはどのような社会になることか考える	・女性解放運動史 ・男女共同参画社会の形成に係る歴史的な経緯	2.0	講義	大学教員	OHP
3	男女がともに生きていくために	日常生活におけるステレオタイプな考え方に気づく	・日常生活におけるステレオタイプな考え方について	2.0	講義 ロールプレイ ゲーム	大学教員	ビデオ OHP
4	日常生活の中のジェンダー	男女の伝統的な役割分担を考える	・地域、家庭、職場の中のジェンダー ・隠れたカリキュラム	2.0	講義 ワークショップ	女性センター職員	ビデオ OHP
5	愛って何?	女性の人権として、性と生の問題を考える	・ドメスティック・バイオレンス、リプロダクティブ・ヘルス/ライツ	2.0	講義 ワークショップ	女性センター職員	ビデオ OHP
6	ティーブレイク	性にとらわれず自分らしく生きることについて考える	・学習内容をもとに、女性の人権や社会との関わり方について話し合う	2.0	グループトーク キング	社会教育主事	お茶とスナック

10 男女共同参画社会の形成に対応した学習プログラム例②

- (1) 事業名： 「男女共同参画アドバンスセミナー」
- (2) 学習目標： 男女共同参画社会の実現をめざし、男女平等をめぐる諸課題についての学習を深め、地域における実践を促す。
- (3) 対象・定員： 成人・20人
- (4) 回数・時間： 10回・20時間
- (5) 学習プログラム

回	学習のテーマ	学習のねらい	学習内容	時間	学習方法	指導者	教具・教材・備考
1	女性学からジェンダー論へ	女性学からジェンダー論への理論展開を整理する	・女性学、ジェンダー論概要	1.5	講義	大学教員	OHP
2	男女共同参画社会基本法の目指すもの	男女共同参画社会基本法の理念と概要を知る	・男女共同参画基本法成立の意義と内容	1.5	講義	関係行政職員	OHP
3	日常生活の中のジェンダー —家庭編—	家族的責任と家庭責任について意義と必要性を知る	・家庭の中のジェンダー	1.5	レクチャーフォーラム	女性センター職員	
4	日常生活の中のジェンダー —学校編—	学校における固定的な役割分担意識を考える	・学校の中のジェンダー	1.5	レクチャーフォーラム	女性センター職員	
5	日常生活の中のジェンダー —職場編—	職場でのセクシャル・ハラスメントについて考える	・職場の中のジェンダー	1.5	レクチャーフォーラム	女性センター職員	
6	日常生活の中のジェンダー —マスコミ編—	バリアフリーな社会の在り方について考える	・情報化社会のジェンダー	1.5	レクチャーフォーラム	大学教員	
7	参加型学習の方法と実際	男女共生社会を考える効果的な学習方法を学ぶ	・ワークショップの理論、方法	3.0	講義 ワークショップ	女性センター職員	筆記用具、紙等 模造紙
8	議会へ行こう	政策決定の過程を知り、政治意識を高める	・議会見学	2.0	見学 (傍聴)	議会事務局職員	移動研修
9	男女共同参画プログラムの作成	男女共同参画社会形成に係る学習プログラムの作り方を知る	・家庭・地域・職場での男女共同参画社会形成に係る学習とその在り方	3.0	講義 実習	社会教育主事	筆記用具、紙等
10	情報を発信しよう	学習成果をまとめ、伝える技術を学ぶ	・学習した内容をまとめ、啓発紙を作る	3.0	講義 実習	タウン誌編集者	筆記用具、紙等

1.1 環境問題に対応した学習プログラム例①

- (1) 事業名： 「エコロジー・ライフ」生活実践講座
- (2) 学習目標： 環境問題について理解を深め、環境に配慮した生活の仕方を考える。
- (3) 対象・定員： 成人・20人
- (4) 回数・時間： 7回・18時間
- (5) 学習プログラム

回	学習のテーマ	学習のねらい	学習内容	時間	学習方法	指導者	教具・教材・備考
1	生活環境を考える	身近な環境問題を理解し、自分の生活スタイルを見つめる	・自分たちの生活環境の現状と課題	2.0	講義	大学教員	スライド OHP
2	〇〇川を歩く	地域の自然や環境問題の現状を知る	・水辺の生態 ・ゴミの収集	3.0	現地踏査 講義 実習	環境アドバイザー	観察用具
3	ゴミの行方を考える	ゴミをめぐる現状と課題を考える	・収集したゴミの分別 ・ゴミの出所と行く先	3.0	ワークショップ	清掃センター職員	ビデオ
4	事例発表・環境を考える	多様な事例をとおり、実践意欲を高める	・環境保護活動の実践事例発表	2.0	発表 質疑	実践グループ代表者	スライド ビデオ
5	地球環境を考える	海外の環境問題の実態と、日本との関わりについて考える	・環境問題の現状 ・環境保護の取り組み	2.0	レクチャーフォーラム	大学教員	スライド OHP ビデオ
6	地球にやさしい生活術	家庭・地域での生活を見直し、環境に配慮した生活を考える	・省エネの方法 ・リサイクルの方法 ・エコグッズの製作	3.0	講義 実技	実践者	実物 写真 工作用具
7	シンキング・グローバル/アクト・ローカリー	自分たちの生活の中でできる行動計画を立てる	・生活環境をめぐる現状課題のまとめ ・解決方策、行動計画	3.0	ワークショップ	環境アドバイザー	筆記用具 紙

1.2 環境問題に対応した学習プログラム例②

- (1) 事業名： 「四季の自然体感」親子教室
- (2) 学習目標： 親子での野外観察活動をととして、四季の自然に親しむとともに、環境保護の大切さに気づく。
- (3) 対象・定員： 親と子（小学生）10組・20人
- (4) 回数・時間： 5回・15時間
- (5) 学習プログラム

回	学習のテーマ	学習のねらい	学習内容	時間	学習方法	指導者	教具・教材・備考
1	春の野山を歩く	野山の自然に親しむ	・山の植物 ・山の昆虫	3.0	野外観察	野外活動指導者	図鑑 スケッチブック
2	夏の川辺を歩く	川の自然に親しむ	・水辺の植物 ・水中の生物	3.0	野外観察	理科教師	図鑑 スケッチブック
3	秋のまちを歩く	普段見過ごしている まちの様子を知る	・まち中ウオークラリー	3.0	路上観察	野外活動指導者	スケッチブック
4	冬の夜空を歩く	宇宙の広さと深さを知る	・冬の星座	3.0	星座観察	アマチュア天文家	双眼鏡 星座早見盤
5	雪の山を歩く	雪の中で生きている 動植物の鼓動を感じる	・冬の自然観察 ・動物の足跡観察	3.0	野外観察	青少年の家職員	歩くスキー

参考資料 1 学習プログラムチェックリスト

No.	点 検 項 目		例 ・ 留 意 点
①	対象者の 属性	性	男性、女性
		暦年齢	○歳、○歳代
		ライフステージ	乳幼児期、少年期、青年期、壮年期、向老期、高齢期
		社会的年齢	就学前期、義務教育期、新婚期、育児期、退職準備期、年金生活期
②	対象者の生活の立場		個人の余暇活動、家庭人として、職業人として
③	対象者の学習レベル		初級、中級、上級
④	学習集団の規模		学習成果、事業費、投資効率から考慮（20人くらい）
⑤	事業名	参加対象重視	高齢者教室「○○○○○○」
		実施主体重視	学校開放講座「○○○○○○」
		学習方法重視	ビデオ利用講座「○○○○○○」
		学習内容重視	国際理解講座「○○○○○○」
⑥	必要課題	発 達 課 題	エリクソン、ハヴィーガースト
		現 代 的 課 題	情報化、国際化、高齢化、男女共同参画社会、等
		地 域 課 題	ごみ処理、自然保護、等
⑦	要 求 課 題		学習要求調査、既存の調査、事業評価の活用
⑧	学 習 目 標		到達可能性、具体性、焦点化、メリット性
⑨	学 習 テ ー マ		学習目標・内容、学習者のレベル
⑩	学 習 の ね ら い		学習目標・テーマ・内容
⑪	学 習 内 容		内容の精選、方法・教材、発展性・連続性、学習内容の量
⑫	学 習 方 法		学習目標・ねらい・内容、学習者の特性、教材・教具
⑬	学習グループ編成		意思の疎通が図れる、親密な人間関係が図れる（4～6人）
⑭	講 師 ・ 助 言 者		学習内容・方法、予算
⑮	教 材 ・ 教 具		学習目標・テーマ・ねらい・内容・方法、学習者のレベル
⑯	学 習 場 所		学習内容・方法、立地条件、必要な設備
⑰	学 習 時 間		時期、時間帯
⑱	学 習 回 数		学習目標・テーマ・内容・予算、助言者の都合、学習間隔

〇 〇 〇 〇 年 間 事 業 計 画

1 社会教育目標

- (1) 〇〇〇
- (2) 〇〇〇
- (3) 〇〇〇
- (4) 〇〇〇

2 社会教育行政目標

- (1) 〇〇〇
- (2) 〇〇〇
- (3) 〇〇〇
- (4) 〇〇〇

3 年間事業計画

事業区分	事業名	事業の趣旨	対象・人数	期日	会場	経費	備考

生涯学習ハンドブック VOL3
学習プログラムの作り方

平成13年3月31日印刷

平成13年3月31日発行

発行所 岩手県立生涯学習推進センター
花巻市北湯口第2地割82-13
〒025-0301 TEL 0198-27-4555

代表者 岩手県立生涯学習推進センター
所長 大橋 清 司

印刷所 (株)五六堂印刷
